常磐毎日新聞
日刊
十一月二十五日夕刊
定價 一部金貳錢 一ヶ月金五拾錢
廣告料普通一行五拾錢 場所指定一行七拾錢
日曜祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人 坂本 [illegible]
福島縣平町長橋町三五
發行所 常磐毎日新聞社 電話 六三〇番
印刷所 常磐毎日印刷株式會社 (振替口座) 東京 四〇二二〇番

江名濱漁船（福田丸 榮福丸）等
南洋漁場に活躍
遠洋漁業開拓に
斷然氣を吐く石城船

小名濱漁港に次で江名中作ノ豊間、四ツ倉等の漁港は漸次改修され規模の大なる船舶を繫ぐに相應はしき港灣と化して來た事は何を意味するかを凝視して來た昨今茲に新らしき漁業化せんとする傾向が多分に發見する事が出來るに至つた即ち小名濱港の日本漁業株式會社が率先して日本丸の遠洋漁業に乘り出さしめて一ケ年水揚額實に二十萬圓に達せんとする盛況を呈し更に第二年目に一層の漁獲に向つて邁進なしつゝあるは本紙既に報じた處であるが同船は去十九日三崎港に歸泊二萬五千圓餘の水揚げをなし直ちに南洋に向つて出帆したのであるが同船よりの無電通報に依ると江名町榮福丸（九十トン）福田丸（七十トン）の兩船も南洋方面に出漁し榮福丸は一萬五千圓福田丸は一萬圓內外の漁獲を占め目下歸港の途にあるとの通信を得、地許小名濱江名濱の漁場は何れ遠洋漁業に有利なるに目覺め着々轉向の方針に代り行くものと見られて居る

植田役場
竣工式延期

既報、植田町役場の竣工式は二十三日擧行の豫定だつたが都合により十二月三日擧げることに延期された

三百万トン突破？
常磐各炭礦今年度の出炭量

常磐地方における各炭礦が本年四月以降の上半期において記錄破りの出炭量を見たことは既報したが更に十月以降明春三月までの間に五十萬トンを增産、下半期の出炭量は少くとも百五十萬トン以上として極力逼迫してゐる需要の圓滑を期することゝなり磐城、入山、古河、日曹などの各炭礦では目下公休を全廢全能力を擧げて活躍してゐるが假りに下半期において百五十萬トン以上の出炭を見る時は十四年度の出炭量は悠々三百萬トンを突破、常磐炭礦始まつて以來の快記錄を表すものと豫想されてゐる

斯界の權威
增田氏を迎へ
農村經營大講演會

石城郡農會では增田亮一氏を迎へ郡下各小學校で左記日割によりいづれも午後一時から「非常時物資統制下農村經營大講演會」を開催するが增田氏は行詰れる農村を救濟せんとするの至誠に燃へ十三年間の官職をすてゝ農の國デンマークに渡られ一百姓として彼地農家に起臥し其實況を研究し更に國民高等學校に入學一學徒として苦心よく其の實際を研鑽せられた眞に熱と實行の人である

△十二月二日—平第四小學校△三日—澤渡小學校△四日—大野小學校△五日—赤井第二小學校△六日—豊間小學校△七日—飯野小學校△八日—磐崎小學校△九日—入遠野小學校△十日—田人小學校△十一日—植田小學校

野澤町長
林氏受諾
近く正式決定

既報、本縣野澤町の町長に推された平署小名濱派出所警部補林眞氏は果して受諾するや否や各方面から注目されてゐたがこの程後任町長詮衡協議會を開いた上滑野大槻の兩交涉委員が來小同氏に交涉した結果快諾を得たので近く町會を開き正式に決定することになつた

天氣豫報

今晩は北西の風晴
明日も北西の風晴

晴れたり—曇つたり
冬の訪れは
こゝ當分なさそう
小名測候所打診

本格的な冬の訪れともならず毎日曇晴、相半はして秋の空を思はせて居る今日小名濱測候所の打診を請ふと風が北西でなく南を吹いて居るのは面白くない最も北西で高氣壓が滿洲の曠野に現れ太平洋上には南低の氣壓配置でなくてならぬのであるが其配置を失つて居るから晴だと思つても曇り曇つたかと思ふと晴るゝと云ふ有樣である然し別して惡くなる傾向もないから茲二三日はこんな模樣で終始するだらうと

小名濱の漁夫
鹽釜で窒息　一名死亡 一名重態
船室を閉し煉炭で暖をとつた爲

木炭代用品の煉炭が生んだ窒息事件—二十三日夕刻宮城縣鹽釜町北濱町の船溜りに繫留してゐた小名濱町三代義勝氏所有の漁船大勝丸乘組漁夫高橋初次郎君が機關長に會ふため船に近づくと中からうめき聲が聞えたので鹽釜署に報告、署員が駈けつけて扉を明けると同船機關手小名濱町堀內福壽（一九）並びに漁夫丹波菊次郎（三）の兩君は煉炭を焚きながら昏睡狀態になつてゐるのを發見直ちに附近の醫院に擔ぎ込んだが遂に堀內は死亡、丹波は依然として昏睡狀態を續けてゐる、原因は二十二日夜機關長が小名濱に所用のため出掛ける時堀內、丹波に留守を命じ火を焚かぬやう注意して出掛けたが雨が降つて寒氣が酷しくなつたので機關長の注意にも拘らず直徑六寸の煉炭を購入して焚き、室內を密閉して暖をとつてゐるうちにそのまゝ昏睡狀態に陷つたものである

第一校唱歌會

平第一小學校では十二月二日唱歌會を催すことになり目下練習中であるが同日から五日迄四日間全校兒童の成績品展覽會を開催する

小名濱支局通信

磐陽を偲ぶ敎育家の面影（上）

支局長 小野務平

▽磐中敎諭たりし平賀室蘭高女校長△

歲月は流水の如しとは古い諺だが之を繰り送さない譯けには行かない又白駒の隙を過ぐるのも此道理から出發した諺だ思ひは二昔の以前に歸る、小野町長め長男仁一と云ふのがあつた磐中入學に際して其手解きを乞ふべく辿りついた磐中校の先生の中に平賀仙三郎と呼ぶ元氣潑剌たる青年敎諭があつた、何かの知り合へで仁一君の一身を平賀敎諭に一任し或時は其寓居にさへ置いて敲いて勉強上の指導さへ受けた事があつた、そして五年の課程は何時も先平賀氏の強い指導に依つて磐中卒業までに及んだが丁度その頃平賀氏は北海道の中學校に轉任して仕舞つた當時數年の間は舊知の間柄として寒暑の伺候は相互に雁魚に任せて通信を交はして居つたが有爲轉變の荒浪に柔まれた記者の生涯には波瀾重疊筆紙に盡し難い境遇の變化を見るに至り自然氏との書信の往復もたい〳〵となつて仕舞つて茲に十年近い歲月が流れた

總ての苦境から脫出して再び新聞人として立つた時に嘗ての知己友人を夢の如く幻の如く腦裏に浮び出して來る數多の中にキツクリと浮び上つたのが平賀氏であつた今では北海道だらうかと遂に通信をして久濶を謝たうと思ひ立つたのが十月初旬頃であつたらう、直ちに磐中や磐女に向つて職員錄を力に氏の所在を尋ねた茲で初めて北海道廳立室蘭高女校長として現職に在る事が判明した

こうなると矢も楯も耐まらず禿筆を揮つて過去の疏音を深謝し現在の情況を通報した、そうして其後の氏の消息を一日千秋の思ひで待つた、待つ事二ケ月或は意の通ぜざるものありしかを疑ひ更に久濶から來た罪の大なるものあるを恐れた、そして舊情を溫むる機會は永久に絕無かとも悲觀した

所が俄然昨二十四日一封の書信を更に小樽新聞一葉とを送つて來た、其書信の切々たる磐陽を偲ふ情誼と舊知たる記者を忘れざりしに感極まつたのである今其書信の一節を揭ぐると

拜啓 時下秋冷之折柄愈益々御壯健にて御活躍之由大慶至極に御座候十六ケ年以上の御無音をも御咎めなく趣味に富む御[illegible]信非常に懷しく拜誦仕候磐城時代が戀しくなり機會を得て御伺ひ致し度く存じ居り候處過日十六日東京に於ける校長會議よりの歸途一寸御地に下車致し候處磐中の職員方々に面談の機を得餘り長談議に時間を失ひ遂に御訪ね出來ず不本意ながら歸道仕り候何卒不惡御諒祭被下度候（續く）

平市參事會

平市參事會は二十九日午後二時から開き豫算追加土地購入（舊平雜堤）中野勇吉氏提起の本年度前期特別稅戶數割異議申立決寄附採納、區長代理推薦の件を附議する

平市內の洋品店荒し
四倉署員に御用

四倉署で二十三日夜大野村中島永山菊見（三）が自宅に立回つた所を捕へた同人は昨春三月以來平市內でワイシヤツその他洋品店を專問に荒し廻りかねて平署で手配中のお尋ね者と判り追求中

揚繰・底曳共に
昨今は不漁續き
小名濱市場頗る閑散

待望の揚繰漁業は鰯群の南下が未だなので金華山沖合から歸港も出來ず鹽釜中心で作業を續けて居る既に十一月も餘日ないので焦燥の氣が各商賈に漂つて來た觀を呈して來た、處で底曳はと云ふと今朝魚市場水揚げが平目四十五〆四圓乃至五圓、ハモ百二十貫一圓四十錢乃至一圓五十錢小腹八十貫二圓五十錢乃至三圓イカタコ百三十貫二圓乃至二圓七十錢と云ふ薄漁で十三艘の漁船で此始末で濱の一般に不況を喞ちつゝある現況である

大陸を旅して（六）

篠山 廉

移民地慰問

十月四日七時朝食匆々佳木斯の旅舍を出發、松花江溯江の川蒸汽に乘る、河の幅一キロもあらうか、濁流浪を打つて流る、對岸と思はるゝは河中の中島だと聞かされてたゞ驚くのみ、島中、滿人の部落あり二三十戶の民家が見える沿岸には、良質の石炭が山をなして積まれてある、附近興山鎭と稱する炭坑の產とか

舟行約三十分對岸の蓮江口に上陸、この地は近郊の農產物の集產地、野菜を山に積んで、滿商が喧嘩でもして居るやうな大聲賣り買をして居る間を小馬大の野犬うろつき見慣れぬ一行を見て今にも吠えつきさう、擺る〳〵滿人の群れの中を通りぬけ、馬車を驅りて三江省湯原縣の福島村に向ふ、この間三里半曠莫無限の沃野各所に移民部落あり途中七八十名程の小學兒童が數名の敎員に引卒されて來た、馬車を止めて聞けば福島村の生徒で校長の安井勝雄君が暫時移民敎育の大要を聞かしてくれた、尋一から高二迄の男女總員七十六名、物珍らし氣に吾等の應答を聞いて居る、たしか我等の父兄と同じ訛りの話を聞とれて居るらしい、別れてからもふり返りつゝ行く姿も、いじらしく目頭があつくなる

やがて福島村の開成部落に着く偶然の來訪に驚きつゝ挨拶に出て來たのが、双葉郡川內村出身拓務省第六次先遣部隊古內貞雄君である慇懃に一行を迎へ、入植以來の苦心を談る現に部落の構成に努力中新に北海道より輸入した馬の爲めに厩舍を造築中、其の努力を勞り携帶の菓子を愛娘に頒ち、更に步を進めて本部を訪ね、團長佐藤民四郎君に面接した、君は山形縣出身豫備中尉の偉丈夫、一見剛毅闊達眼光銳く、不愛愉の男、一行を代表して來意を告ぐるも更に相手にならず、無言稍々久して後初めて口を開けば、從來の來訪者の棚下しだ、聞けば、この原始生活をして居る移民地を訪ふ心境に誤があると、叱りつけるやうに語る、此の時先訪の縣內正一さんとも多少の魂膽をやつた事を例にとつたが結局兩君を馬鹿に氣に入つたと譽めて居つた、何はともあれ、せめて一ケ月も滯在して勞、苦艱食を共にして其の實生活を体驗せよといふのであつた、本團は、昭和十二年十二月零下四十度の極寒を冒して入植爾來經營宜しきを得、年々發展第一期の計畫も來年を以て終らんとする由、事務室の壁間に次ぎの詩が書いてあつた

護境健兒追朔鴻。
鋤犂在手氣如虹。
能將耕耨宜皇化。
何讓一戰汗血功。

平の公益質屋
有卦に入る？
質草も相當運ばれ
前途有望と番頭さんら大喜こび

過般華々？しく開催した平市の公益質屋も青沼市長、野崎市會議長議員らの初置きに前景氣？をつけられ連日四、五件多くて八、九件のお客を迎へ番頭の佐藤伊太郎書記らを頗る多忙を極めてゐるが、市當局では最初この景氣に開催したのだから質の門を潜る人々は殆どないものと內心ビク〳〵してゐたもの、ところが豫想に反し質草も相當？に運び込まれるのでヤレ〳〵安心したと妙な安心の仕方をしてゐる

自作農創設
維持資金貸付決定

本縣における十四年度自作農創設維持資金貸付額はこの程決定されたが地方關係は左の如くこのほか出征記念として鹿島村荒川源重氏に千五百圓貸付られることになつた

△上下小川組合國井勝丸氏二、三〇〇 赤井鈴木種和氏三、六〇〇 荻野武氏一、六〇〇△磐崎小泉三夫氏一、二〇〇、齋藤儀一氏一、〇〇〇、磯上佐久間氏三、二〇〇、渡邊水山大一郎氏三、八〇〇、岡部縫茂氏二、〇五〇 若松已之藏氏三、八〇〇、田子龜雄氏六、〇〇〇、木村喜八氏一、一六〇、丹野道之助氏四一〇〇、高木信定氏一、二〇〇

試驗制度改正で
第二校の父兄會
体育方面で懇談

平第二小學校ではこの程入學試驗制度改止に伴ふ父兄會を開き改正の內容を說明父兄の心構へにつき要望するところあつたが父兄側は今春の實績に鑑みマツト飛びボール投げ懸垂屈臂等体育方面の向上につき特に要望しそれ〳〵器具購入資金を釀出することになつた

一方平第一小學校でも同樣父兄會を開いたが兩校の今年度中等學校受驗志望兒童は三百名に近いので新制度による校長の報告、体格口頭試問の按配運用については從來以上に深い注目を拂つてゐる

平署警防團檢閱

平市警防團の秋季檢閱は十二月一日午前七時から平商校庭で行はれるが其他各町村の日割は左の如くである

△二十八日湯本町△十二月二日飯野△三日江名、內鄉、好間、玉川磐崎、三阪、澤渡△七日鹿島△十日小川、赤井△十一日夏井他は未定

小川君村葬　好間

村出身步上等兵小川久義君の遺骨はこの程聲なき凱旋したが二十九日ころ村葬を執行される筈

お祭り

平市下平窪村社諏訪神社、同中鹽熊野神社の新嘗祭はいづれも二十八日執行される

ロハ呑常習の 大工の正公檢擧

高久村神谷作入工菅波正渡（四）は去る二十日午後六時半頃小名濱町カフエー「うきよ」こと鈴木武八さん方で同僚三名と八円八十錢の無錢飲食を働いたこと發覺今二十五日平署に檢擧された

同人は前科二犯を有する無錢飲食の常習者で目下執行猶豫中のものである

優良種牝馬檢定　種馬

統制法による優良種牝馬檢定は十二月六日午後一時から神谷小學校で行はれる

神谷警防團幹部會　神

谷村警防團では二十六日午前九時から村役場で幹部會を開き防火デー及び秋季檢閱に關し打合せする

實兒の遺志で　高久村

農田中市太郎さんはこの程死亡された實兒市郎さんの遺志により同村警防團に金一圓を寄附した

常習賭博に懲役

既報防空訓練の眞中花札賭博を除張檢擧された一味のうち小名濱町大工小野一（二九）は常習賭博で起訴されこの程平區から懲役三ケ月の判決を言渡されたが不服で控訴を申立た

銃後奉公會へ寄附　平

市中鹽吉田安治氏は亡祖父善吉さんの遺志により今二十五日市銃後奉公會に金十圓を寄附した

平市人事

回死亡

△中鹽字沛澤八吉田安治氏祖父善吉さん（七六）

ラヂオ

今晩の部

▼後六、〇〇 子供の時間
▼後六、二五 講演「惡質金融業の驅逐」庶民金庫名古屋支所長井關孝雄
▼後七、三〇 國民歌謠「空の勇士」
▼後七、四〇 講演「支那事變の作戰より得た敎訓」海軍大佐加藤尙雄
▼後八、〇〇 ◎大衆演藝の夕◎

明日の部

▼前七、三〇 朝の修養「產業戰士の體驗」荒川平三郎
▼前一〇、〇〇 週間を顧みて
▼後〇、〇五 室內樂
▼後一、〇〇 第三回出征軍人遺家族並傷病將士慰安會—弘前陸軍病院より中繼—
▼後三、〇〇 蹴球試合實況—明治神宮外苑競技場より中繼—
▼後二、五九 北米西部向海外放送、國內アナウンス
▼後五、三〇 傷病將士應集俳句披講、富安風生
▼後六、〇〇 子供の時間童話劇「故鄕」秋山高慶他
▼後六、二五 講演「太古の日本人」長谷部言人
▼後七、四〇 寄席中繼—東寶小劇場より

戰國間諜傳

大井沢龍 作
山科一郎 畫

第百二十六回

女房の疑ひ（四）

「おい〳〵、そんなことをギヤギヤ云つてゐるひまに、早う御飯の仕度をして持つて來て上げんか、もう時分時がとうに通り越してゐるではないか。さぞ御殿がお空きであらうに」

「越してゐるのは良人さんの料簡ちや、好きなお人と仲ようしてゐりやお腹も空きますまいにのう。私の炊いた御飯では所詮このお客の口には適はぬによつて、良人さんが手づから別に炊いて味のよいところをおあげさんせ。それが惚れた女子へのこゝろづくしといふものあゝ口惜しい〳〵」

お稻は疊にうつ伏しておい〳〵と泣き出した。

「お前は何か思ひ違ひをしてゐるのちや、あの御方は—」

「えゝ聞きませぬ〳〵この家に訪ねて見えた時から男子か女か〳〵と思つてゐたら案の定、男の姿はしてゐはしてもあれや、女子ではないかや。えゝ女子ちや〳〵お前が何んと云ふたとて、女子に違ひない證へないのはその体つき腕の肉つき、背恰までが、どの樣につくろつてゐても男らしくない風呂に入つた時に、こつそり節穴から覗いて見たら案の上ふつくらした白い乳房が………」

「あつ—乳房を—猥なことをしくさる奴ちや」

「どつちが猥な人か。畜生ちや何んちやと、男らしい聲名を呼んで私の前をつくろつてゐるけれどその實はお前が御用で京殿へ上つた折に手なづけて、家同樣に乳繰合つた何處やらの娘にちがひない」

「た、たはけたことを………。馬鹿やろう、お前が何んと云ふともあの御方は私のためには恩顧も恩義、大恩ある立派なお武家の…」

お稻は忠五郎の云ふのもきかず

「噓々い〳〵かげんの作り話ちや昔侍をするによつて江戸へ來いとお前が甘い言葉をかけた故に親を一人で麻落ちして遙々江戸へ下つて來たのちやろ。それも私に知れぬやう、他所へでも圍つてでも置かしやんすなら、まだしものこと、本妻の私と云ふものが居る此の家に隨々しくも連れ込んで見よがしに惚面狂ひされては、何んぼ私が馬鹿な女でも、默つてそれを指をくわへて見てゐられまいがのうあゝ口惜しいイ〳〵」

またもや武者ぶりつく。

「それがそなたの僻み……」

「いゝえ、そんなら何んで男裝にばけてゐるますぞへ。そ……何やら二人でヒソ〳〵と人にかくれて噺をしやんすぞへ」

「あゝいへばこう。よくもその樣な……これお稻、そなたへ云ひ聞けることがある。ちよつとこちらへ來い」

「えい〳〵何處へなりとも參ります。私もお前さんにたんと言ふことがあるぞへ」

「むゝ、聞いてやろう」

ひどい縺れになつた、夫婦は角立つて立ち上つた。稻は男の寢そつた忠五郎の袖をとつて

「御內儀は何やら、思ひ違ひをして御座る樣子。よくその譯をいふてのう。何事も穩便に………」

「いえ、宜しう御座ります。さ、來い」

出て行つた夫婦は茶の間に入らぬうち、もう廊下先で烈しい爭ひを始めた。

「えツ口惜しい。この淫奴男ツ」

いきなり忠五郎の胸ぐらにお稻はとびついて來た。

「ど、ど、どうするのぢや、汝は血迷ふたか。このき、氣狂が」

お稻、腰ツ調を振ひきりなぐりつけた。お稻はワアと大きな聲をはりげて泣いた。

少年少女のページ

子「お父樣 けふ學校で體重を計つたら七十キロあつたよ」
父「七十キロ？そんなに――」
子「えゝはかつた人は卅五キロだといつたのだけれど僕その時片足で立つてゐたんだもの」

新兵器飛び出す

落下傘部隊が出た

歐洲大戰と各國の科學の力

こんどの歐洲大戰ではわれわれの想像もしなかつた珍らしい、そして物すごい效力のある兵器が飛び出すことだらう――これにたれもが考へてゐることです、すでにドイツ側では落下傘部隊を使用したやうです、落下傘部隊はソ聯が大へん自慢にして世界中に宣傳したもので昭和十一年の演習では五千人の兵士を飛行機のうしろに[illegible]させ[illegible]落下にも成功したさうですが、これは敵國の工業地帶に着陸してその軍需工場を破壞するのが主な目的で優秀な軍隊をもつ國では一個師團ぐらい着陸できるといふことです、ドイツのほこりであるジークフリート・ラインは幅五十キロの大要塞で昨年十月完成し四百キロに一萬七千のトーチカがありとくに戰車防禦をほこつてゐます、地下には猛毒ガス放射の仕掛もあるさうですが一方フランスのマヂノ、ラインは地下七階もあり地下鐵さへ通つてをります、この要塞が數キロをへだてゝ互ひに近代科學の粹を秘めたまゝにらみ合つてゐるのです。フランスでは人造煙霧を使つたさうです、これは煙幕の一種らしいがこれによく似た働きをする液體ガスといふものも發明されてゐます、このガスを砲彈につめて發射すると彈丸が破裂したとき液狀のガスが氣體となり濃霧ができて[illegible]砲臺や都市の一部がたちまちきりの中にかくれてしまふのです。ところがこの反對にドイツのヴィーガンといふ將校が發明したきりを消す機械もあります、これは水滴に電氣を帶びさせたものを放つてきりを拭ひさるものです、このほか各國で實驗がすんだものでいつ飛び出すか分らぬものに登坂や岩山などけん路を越へる「登攀戰車」をイタリヤではすでに作つてゐます、岩を越へる時など頭で逆立ちをしながら前進する性能さへあるさうです。

（問）獵犬の耳たぼはなぜたれてゐるのでせう。

（答）セッターなど見ると大きな耳たぼがベッタリ耳のあなをふさいでゐます。あの大きな耳たぼが立つてゐたら、音がよく耳へ入つて、獵に都合がいゝだらうにと思はれますが、實は獵犬には音があんまりきこえては困るのです。獵犬は鼻でもつて、鳥やけもののゐどころをかぎだすんです。音がよくきこえると、その方に氣をとられて、鼻の感じが鈍められます。つまり獵犬は耳を犧牲にして、鼻をするどくしてゐるわけです。耳たぼが耳のあなをふさいでゐる犬が獵に適するわけがお分りでせう。

兵器と文房具

[illegible] カーボンと同じで飛行機その他のモーターに必要なカーボンブラッシュといふものがあります、探照燈や照空燈の光源もカーボンです。

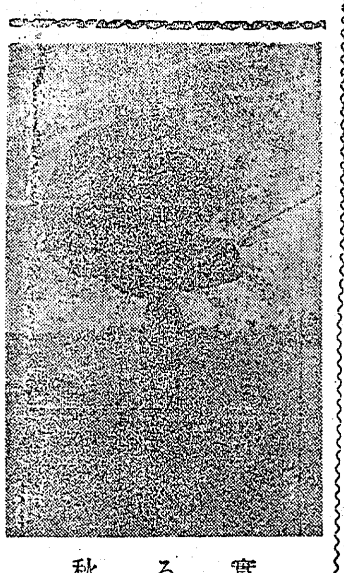
[illegible] 穂先は兎、たぬき、羊などの毛です。その毛が直接戰爭に役立つものでなくても兵隊さんの冬外套の襟には兎や羊の毛がついてゐます。

[illegible]紙 紙は木綿や木材から出來るので紙のらん用はきものと家屋に影響がありその上、木綿と木材は火藥の原料です。

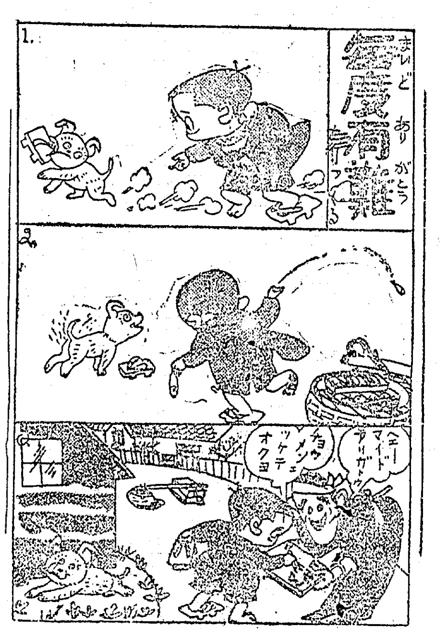
薩英戰爭

東郷平八郎少年の奮戰

文久二年八月薩摩藩主島津忠義の父島津久光公が江戸から薩摩へ歸る途中いまの神奈川縣生麥村にかゝつたとき、イギリス人四人が行列に無禮を働いたので家來の武士が道に從つて一人を斬り捨て二人に傷つけました、イギリス政府は徳川幕府と薩摩藩にそれぞればく大な償金を要求し、斬つた武士の引渡しを求めました 幕府はおどろいて承知しましたが薩摩は正義を說いてことわつたので翌年三月七日、イギリス艦隊司令長官が七せきの軍艦を率いて鹿兒島灣に入つて來ましたが、薩摩の[illegible]中の汽船三隻を無法にも分捕つたので薩摩も大いに怒りました。薩摩方は舊式の大砲とわづかな兵でしたが死を決して戰つたため艦隊は旗艦ユリアラス號が手ひどく傷めつけられ艦長副長は戰死したゝくさんの死傷者を出し、座礁した軍艦もあり、つひに撃ちしりぞけたのです。この時は藩の武士は十五歳以上總動員でした、後にいづれもわが海軍を背負つて立たれた東郷平八郎、井上良馨、伊東祐亨の三元帥も十七・八の少年兵として初陣に勇々しく活躍し井上さんは脚に負傷を負ひました、そのお兄さん、樺の大山巖、西郷從道、篠原國幹といふ維新の大功臣となられた人々は西瓜賣の決死隊で斬り込みに出かけたりしました東郷さんは十七歳でしたが、砲彈雨霰の中に顏色一つ變へず戰ひながら「海からくる敵は海に出て防がねばならぬ」といふ道理を會得して後年古今無双の名提督となる悟りをこゝに開かれたのです。みなさんこの國難の日に立つ少年武士の勇氣こそは、この非常時局の日本少年少女がお手本として深く深く胸にきざみつけておきませう



實る秋



1.
まいど ありがとう
2.
ヘエー マイド アリガトウ
チョウメンテ ツケテ オクヨ

テレビジョン

將來の放送は

何に役立つ

純國産テレビジョンの試驗放送は日本放送協會技術研究所と放送會館十二キロの空を征服、好成績をおさめたことはみなさんもごぞんじの通りですが耳だけのラヂオから一歩をすゝめた耳と眼のテレビジョンだけに、その應用範圍も非常にひろくなりませう。さうなると一體どんなものが放送され、私たちの眼とみゝをたのしませてくれるのでせう。

室內放送では、たとへば演劇などもお芝居をする姿がはつきりみえ聲が一緒にきこえてきますから全くそばでお芝居をみてゐるのと同じわけです。しかし、屋外放送になるとあまりひろい範圍に放送することができなくなります。たとへばグラウンド一パイに守備する野球などの場合は、[illegible]みるやうなわけには行きません。投手の投球ぶり、あるひはバッターボックスだけなら室內放送と同じやうにそこへ撮影機をすえつければよいのですが、球がセンターの方まで飛ぶのをとらへ、同時にランナーが一壘へ走り込み、守備の[illegible]がしてそれぞれの位置につく姿を一時に放送することはちよつと無理なのです。しかし、ボートレースのやうにきまつた方向に進むものは、ボートに撮影機をすえてレースについて走れば十分それぞれ放送することができるので、現にイギリスでは大競馬をおさめたといはれます。もちろん、[illegible]の放送は十分にできるわけです。

未來の猛者

少年戰車兵

千葉の戰車學校見學

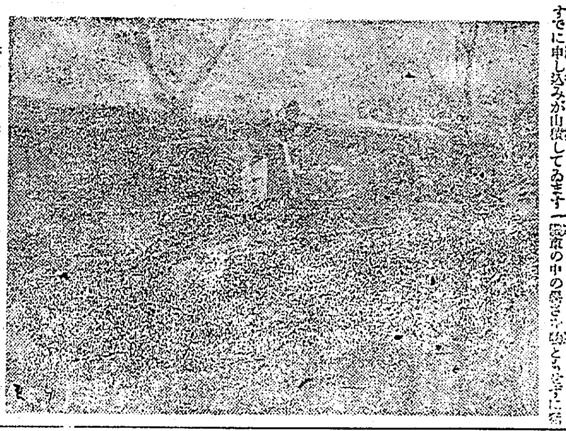
支那各地の戰線などでわが國の戰車、戰車隊が非常な戰果をおさめてゐるとき、陸軍では、こんど新しく少年戰車兵を募集します。すでに申し込みが山積してゐます

眼を[illegible]て[illegible]と[illegible]れて戰車の機械を操縱したい、戰車についてのすべての知識はもとより、無線通信なども學びます、この將來の戰車の中の勇士を[illegible]が戰車隊を育てる千葉市[illegible]町の陸軍戰車學校を見學しました

○千葉市の郊外、秋の草の茂る野にその校舍があります。校門をくゞるとまづ目につくのは戰車神社です、將兵は、まづこの神社に參拜します、わけて雄々しく出征の際は神社に詣でゝ戰車の武運長久を祈るのです、今秋初めて少年戰車兵百五十名が入校すると共に戰車神社に忠勇なる戰車兵となることを誓ふことでせう

○學校には現在各隊からえらばれた人たちが入校してゐます、作業[illegible]演習を行つてゐる兵隊さんの姿は神のやうに強く見えました

○兵隊さんはまた戰車を[illegible]可愛い子供のやうに大切にします。戰車でも、[illegible]でも故障が起るとまづ戰車の手入れもします、戰車と戰車兵の魂と魂がつらりとむすびついてゐる、この氣もちこそ日本の戰車隊精鋭のもめです、少年戰車兵の今年の採用人數は百五十名滿十五歳から十八歳までの志願者を二年間みつちりとこの學校で教育して、天晴れ戰車兵としておくりだすのです



時局小說

驀進

（禁上演映畫化）

士別三樹

北野停画

第十七回

惱み（二）

その翌日、一兵は七時といふのに、眼をさまして、床の上に起き坐つてゐた。

明日の日曜日は陽子さんを訪ねるのだ――と思つただけで、妙に興奮して、昨夜はよく眠れなかつた。彼はそれを思ふと、苦笑して、床を離れた。

窓を開けると、さわやかな初夏の朝風と、[illegible]が、サッと流れ込んできて、久しぶりに味はふ、滿ち足りた朝であつた。

彼は朝食を濟ますと、ゆつくり無精ヒゲをソリ、キチンと身支度をした。

――こんな顏へあの綺麗なお嬢さんにでも見られたら―― ふと彼は、そんな不安を感じたので、急いで下宿を出た。

何時もと同じ時刻に、同じ方角の電車に乘らねばならぬサラリーマンにとつて、一日の自由な時間と、自由な行動とは、どれ程の樂しさであらう―― 一兵は[illegible]行の電車に乘つて、子供のやうに、期待のハヅムのを感じてゐた。

新宿で電車を降りて彼は、思はずドキンとして歩みを止めてしまつた。

前の方を歩いて行くのは確に、陽三と由紀子に違ひないのだ、由紀子の手に何か手土産のやうなものがあるのから察すると、誰かを訪ねるらしい樣子である。ヂッと見てゐると通りがかりの小僧に、道をきいてゐる。果して初めての訪問だ。若しや？ ふと一兵は、不安を感じ始めた、陽子の家を訪ねるのではあるまいか、とに角彼等に氣付かれぬやうに、跟いて行つた。

もつと田舍じみたところかと思つたら、どうして、意外な程大工場の煙突が立ちならんで、もく／＼と吐き出される煙が、[illegible]と流れてゐる。

工場の一定の勤務をした男女工員の群が交替したのでもあらう、ゾロ／＼と一緒になつて

ともすれば見失ひさうになるのを[illegible]しながら、[illegible]歩いた其處が十字路になつてゐて、陽子の家へ行くのには、其處から右へ曲るやうに教へられてゐた。――右へ曲れば十中八九陽子を訪ねるのだと斷定していいのだ、何もなく彼等は十字路を右へ折れてしまつた。一兵は矢つ張さうかと、ガッカリしてしまつた。

前の晩から、ろく／＼眠れない程興奮してゐたのに――と思ふと、無性に腹が立つてならなかつた。然し、陽三や由紀子と顏をあはせることは、今の彼にとつても[illegible]。然しいい結果にはならないと[illegible]、[illegible]始めた、[illegible]に氣がつくと、近くの喫茶店に入つて行つた。

ボックスに腰を下した彼は、少女にコーヒーを注文して、ふと何氣なしに眼を見上げた。

そして、はられてあるビラを讀めて思はず、『オヤッ』と呟いた。

ポスターは、內外映畫としてゐて、ミス、ミドリの寫眞が、大きく刷り込んである。

『はてナ』そのミス、ミドリの顏がどうも、知つてゐる顏に思へてならないのだ、昨日新宿で陽三に、あれが、今賣出しのミス、ミドリだと教へられたが、その時は顏もはえなかつたし、銀幕の興味も湧かなかつたが、今、こうして眺めてゐる顏は、確に何處かで見覺えがあるやうな氣がしてならないのである。

少女がコーヒーを運んで來たので、このビラは何處から持つて來たのかをきいてみた。

『これは映畫館さんから頼まれたんですわ、この人の本當の名前は、松原[illegible]つて云ふんですのよ』

少女が映畫に對する[illegible]から、一兵は生返事をしてゐた。

――さうだ、松原[illegible]だ――

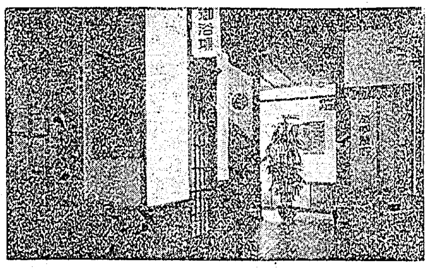
彼はいつの間にかサッと[illegible]歩いてゐた。

◇和文 歐文 タイプライター
◇最新事務用品類
◇文房具一式
◇製圖並に測量用品
◇謄寫版並に附屬品
平市田町銀座街
東邦タイプライター代理店
東邦タイピスト養成所
藤森
電話三七〇番
振替仙臺一五〇一番
（藤森事務用器商會）

高久病院
院長 醫學士 高久忠
副院長 新潟醫學士 赤羽清
藥局長 藥劑師 佐竹菊雄
內科小兒科 外科花柳病科 耳鼻咽喉科
平市田町 電話五一三番
――◎看護婦至急募集――

大塚の……實質サービス
純毛冬のヂヤンバー 八・五〇より 高級最新型
純毛 スキーズボン 一二・〇〇より
サージ・メルトン 普通長ズボンに…
外各種 豐富
◇牛皮製品 男女學生靴 紳士靴 小供靴 各種
平市田町銀座通
其他各種運動具……豐富
大塚 電話七七番

內科 外科 一般
金成醫院
金成忠義
平市鎌田町 電話三五八番



鐵道指定旅館
割烹 小瀧
小名濱電話一〇三番

耳鼻 咽喉 科專門
大和田醫院
平市南町一六（電話一七〇番）

花柳病科外科
木村外科醫院
平市南町（警察署通り角）電話三〇九番

…お買物なら 在庫品豐富な…
平市田町 銀座通り
玉屋洋品店
電話六五六番

吉田眼科醫院
平市紺屋町 電話六八番
醫學士 吉田久雄

提灯と國旗
[illegible]

（夜間診療）
胃腸 性病
內科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科
專門
松村胃腸性病醫院
平市南町（電話一〇七番）

かぜ せき
共通散「アコー」
本品は感冒、頭痛、解熱又は流行性感冒肺炎、喘息、急性、慢性氣管支炎に効ける乾咳性の劇甚なる咳嗽發作に對し
又子供には小兒に於ける氣管支加答兒、肺炎、肋膜炎、咽喉加答兒、百日咳等の鎭咳解熱劑として効あり
特に子供達の爲めに小兒用があります。
正價 三十錢、五十錢、一圓
平市古鍛冶町一〇（縣社石段下）
製劑發賣元 阿康藥局
責任者藥劑師 明治藥學士 阿部康雄
電話四四番
振替東京三〇〇六五番

これは便利！
▼手を荒らさず
▼絹、毛織物、木綿、スフ生地を傷めず
▼つけておくだけで洗へるおちのよい
（美）マルミ粉末石鹸
製造元 平市材木町十一番地 電話（呼）四〇八番

カメラと用品
現像引受

さくらクロームフヰルム

お用命は
西村屋藥局寫眞部
平2・電3

お醬油はヤマフル
醬油 味噌
たひら正宗
鰹節 食料品
釀造元 鹽屋
福島縣平市
電話一〇 二七番
明治生命磐城代理店 山崎與三郎